

Title	支那の産業に對する投資
Author(s)	戸田, 海市
Citation	經濟論叢 (1923), 16(6): 959-978
Issue Date	1923-06-01
URL	http://dx.doi.org/10.14989/128034
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第六號 第十六卷

大正二十六年六月一日發行

論叢

賣上税の本質及長所 法學博士 神戸 正雄
日本經濟史の特性 法學士 本庄 榮治郎
サン・シ社會改造哲學及び連帶思想 文學博士 米田 庄太郎
モン派の 法學士 恒 藤 恭
價値の類型と個性

時論

支那の産業に對する投資 法學博士 戸田 海市
税法の新改正を論ず 法學博士 小川 郷太郎

說苑

婚姻年齡の統計的研究 經濟學士 岡崎 文規

雜錄

東京市の水面人口及所帶 法學博士 財部 靜治
炭鑛労働者の生計狀態 法學博士 河田 嗣郎

附錄

本誌第十六卷總目錄

支那の産業に對する投資

戸 田 海 市

一 支那投資の方向轉換

邦人の支那に於ける投資起業は、過去に於ては我政治的努力に依頼して排他的の利權を獲得することを主眼とした。最も滿洲及山東に於ける邦人の投資には普通の産業的性質を有するものも相當にあるが、是亦此等の地方に對する我國の政治上の特種地位を利用して行はれたものである。我識者の間には支那市場を主要の相手とする國內工業が、其事業の一部を支那に於て經營し、以て國內工業の向上と安定とを圖るの必要が認められ、又妄りに政治的勢力に依頼する利權獲得運動の不當なることが夙に主張せられたが、支那貿易に重大の關係を有する一般工業家は、國內企業より生ずる眼前の利益に満足して、支那に於ける起業を等閑にしたるのみならず、邦人が國內に經營する事業と同種類のことを支那に於ても經營し、以て邦人自から國內産業に對する競争

を惹起することは、一個の資本家として利益を得ること大なりとしても、自國の産業を自から破壊する非愛國的の行動であり、又之が爲めに我労働者をして失業に陥らしむることゝなるから、其行動たるや甚だ非社會的のものであると云ふ反對論が強かつた。

然るに歐洲戦争以來、一面支那に於て低級品生産の工場工業が急速に發達して大なる利益を擧げ、特に華府會議の結果支那が輸入税を著しく増加することゝなつた爲め、我國より從來の如く低級工業品を輸出するの困難が加はると同時に、支那に於ける此種の生産が益有利となるに至つた。他面には戦争以來我國の勞銀も大なる騰貴を示し、戦前に比して物價騰貴の二倍となれるに對し、勞銀の騰貴は約三倍に達し、其他一般に労働者が急速に覺醒して之が待遇の改善に多大の費用を必要とし、之が爲め從來の如き廉價なる低級品の生産は收支相償ひ難きに至つたが、支那に於ては今後も能率の割合に低廉なる労働を自由に使用し得る見込がある。是を以て戦後支那に對し政治的意義を有する投資の杜絶したるに反し、純經濟的の投資起業が盛んとなり、特に支那市場を相手とする我紡績業者の支那に於ける紡績經營が流行となるに至り、最早や以前の如く之を非愛國的又は非社會的なりとするの批難を聽かざるに至つた。

此の如き時勢の變化が我國の支那投資策の變更を要求するの聲を生ずるに至つたのは怪むに足らぬ。從來政府は支那に對する投資起業の爲めには常に政治的勢力の先行することを必要條件と

考へ、特に戰爭中は政府が利子の保證を附して民間の支那投資を獎勵し、即ち實質に於ては政府が公債を募つて自から利權獲得の爲めに投資したのであるが、此政策は全然失敗に終りて元利の取返しも不能となり、特に之が爲め支那及列國の排日の原因を造るに至つた。今日政治的なる支那投資は列國の共同事業とせられて、各國の援驅け運動を許さざるのみならず、我輿論も過去の失敗に懲りて此種の投資に反對すると同時に、純經濟的の支那投資を甚しく重大視し、政府は須らく此の如き民間の投資を保護獎勵すべしとの要求が起るに至つた。政府は此要求に促されて支那に投資する會社を銀資本に由つて設立する法案を議會に提出し、兩院の可決する所となつた。此制度は事實を認むると云ふ程度のものであつて、特別の保護と稱するを得ないが、世間には更に一步を進めて支那投資に實質的の保護を加ふることを要求する者が少なくない。前には米國の支那會社法の例に倣ひ、支那投資より生ずる收益に對して免稅の特典を與ふることを適當とするの論も相當有力であつたが、目下は政府の銀資本設置の要求なるものが世間の注目惹きつゝある。此要求の趣旨は補助貨幣鑄造益金一億二千萬圓の中より數千萬圓を割て銀を購入し、有利の條件を以て之を支那投資者に融通するのみならず、銀相場の變動より起る投資の危險を或程度まで政府に負擔せしめんとするものであつて、實質的に見れば戰爭中に行ふた支那投資獎勵策と大差なく、只だ投資目的が排他的の利權獲得でなくて普通の生産業經營である、而して此等の保護策の

要求を生ぜしめた原因は上述の時勢の變化の外に、米國が戰爭以來東洋の經濟界に對する勢力の發展を重大視し、支那會社法の制定に由り支那投資を促がすに至つた爲め、我國民も米國の勢力の侵入に對抗するの必要ありと考ふるに至つたことである。

二 支那投資と我國の利害

從來の我對支策は歐洲の支那に對する帝國主義的發展に倣ふて失敗したのであるから、今日の我國は資本主義國として國際發展的展を爲さんとしつゝある米國の例を輕率に採用してはならぬ。邦人の支那投資は須らく我國と支那との双方の利害を慎重に考量して決定することを要する。先づ此問題を我國の立場より見るに、支那に於て投資起業が盛んとなるときは、其事が支那人の力に由ると外人の力に由るを問はず、支那の經濟の進歩を來たし、從つて其の外國品に對する購買力を増加する故、支那市場を以て重要の貿易相手とする我産業は一般に利益する。併し支那の購買力増加の利益は我國のみに來るものでなく、諸外國就中英米にも同様に及ぶものであるから、支那の購買力増加を只一の理由として投資を是認するは當を得ない。戦後の米國は資本の過剩に苦しむの狀を呈し、其一部を外國に投下して米國品に對する外國の購買力を増加することが、盡く之を國內事業に投下するよりも國民經濟上に有効なりと考へることも出來るであらうが、我國

は決して米國の如く資本に豊富なりと云ふを得ない。成るほど戰爭以來國內事業に投下せられた資本額は名目上には頗ぶる巨額であるが、其の少なからざる部分是不健全なる投機的のものであつて、眞の資本たる價値に乏しきものである。我國の戰爭以來の實質的の資本増加が何程に達するやは人に由て大に見る所を異にするであらうが、何れにしても今日我國の金利が文明國中最高と云ふべき状態に在つて、外資輸入の計畫が昨今諸方面より起りつゝあることは、我國が近き將來に資本不足の状態より脱し得ざることを示すものである。故に此際國家が特に獎勵法を設けて人爲的に資本の外國流出を惹起することは不當である。最も國內産業の維持發展の爲めに必要な支那投資即ち我産業の自衛的の投資は、今日と雖も適度に之を行ふことを怠るを得ないが、併し此場合にも一韋帶水の支那に投資するに付き政府が特に之を保護するの必要はない。特に國內の事業が自衛上其一部分を支那に於て經營する場合に、其の支那に於ける部分をば名義上獨立の會社企業とすることを便宜とする場合もある。支那に於ける部分を日支合辦として行ふ場合には特に此の如き必要もある。故に表面上より見て那人の支那に於ける投資が單純なる營利的探索に出づるものなりや、又は國內事業と結び付きて之を維持發展せしむる手段となるものなりやを識別するを得ない。従つて假りに國內事業の自衛的の支那投資には幾分の保護を與ふことを適當なりとしても、其保護を正當の範圍に限定實行することが困難である。

國內産業の維持發展の爲め支那に投資することを有利とする場合は二種ある。第一は我産業及生活に必要な所の支那の天然資源を開發する爲めの投資である。天然資源の乏しき我國が支那の夫れに依頼する必要の大なるは勿論であるが、特に此種の事業を支那に起すことは我國内の産業に對して有害の競争を生ずるものでなく、我國は之に由て原料食物の有利なる供給を受くるのみならず、支那に於て開發事業が行はるときは、支那の對外購買力を増加するから、我産業の對支輸出の上にも利益を生ずる。由來支那に對して天然資源の國際的開放を要求することは我國の一貫せる輿論であり、以前には政治的勢力に訴へて其開放を強要せんとしたるに反し、今日は彼我の經濟上の利益と國際的正義とに訴へて其開放を要求して居るのであるが、併し我國には今尙ほ國內農業を保護するが爲め支那に防穀令の存することを喜び、又は國內炭業を保護する爲めに撫順炭の増産輸入を制限すべしとの論も却々有力であることを考へると、我國民は未だ明確に支那の資源開發の意義を理解して居らぬやうである。支那の資源開發問題の中の防穀令に付ては本誌に於て屢論述したが、工業の飯米と様せらるゝ石炭に付ては、近頃支那の石炭開發就中撫順炭増産の可否が一部者の間に問題とせられて居るから、他日改めて之を論ずることとする。

支那投資を有利とする第二の場合は、支那市場を重要の相手とする國內産業が其基礎を鞏固にするが爲め、事業の一部を支那に於て經營することである。而して之を有利とする理由は二つに

分れる。其一は或工業が低級品の生産を支那に移し、國內に於ては高級品の生産に主力を注ぐことを要する場合である。我國の工業は内外の情勢よりして高級品の生産に進むの必要に迫られ、特に労働者の所得を増加して其生活を向上せしむるが爲めには、到底從來の如き簡易低廉の生産に停滯するを得ないのであるが、此方針を實行するに付ては先進諸國の強き競争を蒙るから、多大の犠牲を拂つて持續的に奮闘することを要し、従つて單獨に高級品生産のみを經營して成功を見るまで之を持續することは頗ぶる困難である。然るに我工業家は低級品の生産に付ては充分の經驗を積んで居るから、支那に於て之を經營すれば相當の利益を擧げる見込が立つ。従つて其利益の一部を割て困難多費なる國內の高級品生産を助くることゝすれば、其の成功に至るまで先進國の競争に對して持久し得る。近來邦人の支那に於ける低級工業の經營が盛んとなつたが、併し其經營が國內に於ける高級品生産と結び付けられず、單に資本家の採算上より行はれる場合は一概に之を我國に取つて有利なりと云ふを得ない。寧ろ多くの場合には國內産業に對する競争を惹起す點より之を不利と斷定することが出来る。

支那市場を重なる相手とする國內事業が其一部を支那に於て行ふことを有利とする他の理由は銀相場の變動の爲めに起る危險を除くことである。支那相手の我産業は常に銀相場の變動に脅かされ、従つて之に従事する労働者の地位も不安とならざるを得ない。然るに此種の産業が其一部

分を支那に於て營むときは、銀相場の騰貴の爲めに國內生産の對支輸出が不利に陥るも、一面支那に於て經營する部分が反對に有利となるから、事業全體の損益の平均が取れる。又銀相場の下落の場合には之と反對の方向に於て同じく損益が平均せられる。對支事業に於て此方法に由り意外の損益が平均せられるならば、我工業家は一意専心其業務に従事して工業家たるの本領を發揮し得るのであるが、今日の如く支那相手の事業が事業其物の成績の外に意外なる銀相場の變動に由り其運命を左右せらるゝときは、事業家が一般に浮き腰となり、特に投機的興味が強くなつて眞正なる事業の發展が困難となると同時に、商業道徳上にも由々しき弊害を生ぜざるを得ない。先進諸國の工業は汎く世界市場を相手とし、支那市場は其の一小部分を爲すに過ぎざることを通例とするが、我輸出事業の中には支那を主なる相手とするものが多き爲め、茲に述ぶるが如き特別の事業安定方法が必要となるのである。支那が銀本位より金本位に移るの機會は到底近き將來に起る見込がないから、我對支事業にして支那にも經營し得る性質のものであるならば、其一部分を支那に於て經營することが國民經濟上得策である。

國民經濟上より見て支那投資を有利とする場合は上述の如くであるが、此等の投資に對しても人爲的の獎勵を行ふことは不當である。此問題に關する政府の責任は、支那をして外人投資に對して行ひつゝある種々の不合理なる禁止制限を撤去せしむることに止むべきであり、夫れ以上は

我當業者の自助自衛に一任すべきである。今日の我實業界は自衛上必要なる支那投資を實行し得ざるほど幼稚なりと云ふを得ない。支那投資を人爲的に奨励することは、獨り資本の缺乏狀態を容易に脱し得ざる我金融界より不自然に資本を外國に驅除するのみならず、早晚支那實業界より大なる反感を招く原因とならざるを得ない。支那の工場工業生産に對して最も強き競争關係に立つものは日本品であるが、此上更に支那企業者よりも遙に豊富の資本と充分の經驗とを有する日本企業者か支那に入り込んで企業經營上の競争を爲すことは、支那企業者に取つて大なる苦痛たらざるを得ない。近時の支那の排日運動が政治家學生の間に限られず、支那實業界の有力者が常に之に干與することは相當の理由がなくてはならぬ。支那の有力な實業家と云へば盡く商人であつた過去の時代には、日貨排斥の如く直接に商業を妨害する運動に對して實業家は内心反對する者が多かつたであらうが、今日の如く支那に工業が勃興するときは日貨排斥を有利とする所の有力な實業家が増加し、従つて排日運動を支ゆる所の費用を集めることも容易となる。故に吾々は今後種々の機會に排日運動が起ることを豫期して之に備へねばならぬ。支那に投資するに方り之を日支合併として双方に利益を分つときは、投資を以て日支親善の原因たらしむることが出来るから、出來得る限り此方法を探るべく努力せねばならぬ。今回兩院を通過したる支那會社即ち銀資本を認むる制度は日支合併の爲め必要とせらるゝ所であるから、此制度は日支親善を促進す

るものとして勸迎すべきである。只だ合辦事業なるものは兎角二元的となり、徒らに經費を膨脹せしむると同時に能率を低下するの弊がある。從來支那に實行せられた内外人合辦事業にして能く成功せる場合を見れば、何れも利權を得るが爲めに合辦の名義を掲げ、實際には外國企業家の獨斷專行する場合である。我國に於ても從來内外人の合辦が試みられた例もあるが、大體には失敗と見ざるを得ざる有様である。故に合辦の方法は支那投資に由つて起る彼我の利害衝突を緩和する手段として初めより多くを期待するを得ないが、併し當業者は遠大の利益に着眼して日支合辦を成功せしむべく誠實に努力せねばならぬ。

彼の外國移民を多く受け入れる新開國でも、外國政府の補助を得て侵入し來る移民に付ては反對する場合が多い。是れ移住補助は獨立に移住を執行する能力なき低劣の分子を移住せしめて新開國の不利を生ずるからでもあるが、之と同時に移住補助を行ふ國は移民を送り出すことを以て國威發揚の手段たらしめんとする帝國主義的見地を採つた場合が少なくなかつた爲めである。之と同じく外國企業に對して寛大に門戸を開放せる國民も、外國政府の特別の獎勵を得て起れる外國企業に對しては、資本的帝國主義の侵入と認めて之に反感を生ぜざるを得ない。免税に由りて支那投資を奨励せる米國の支那會社法の如きも、米國が未だ支那に於て見るに足るの企業經營を爲さざる今日に於ては、別段に支那人の注意を惹かぬであらうが、若しも今後米人が日本人と同

じ程度に支那の企業界に侵入し來り、特に日本人の支那投資の場合の如く、支那人と同種類の事業を經營して之と競争する場合が多くなるに至れば、其支那會社法は必らずや支那人の間に問題とせらるゝであらう。吾々は英米人と異つて支那に對し多くを要求せざるを得ざる地位に立ち特に經濟上互に競争せざるを得ざる場合が頗ぶる多いのであるから、一面には出來得る限り支那人の利益と感情とを尊重せねばならぬ。從來日支の衝突は一に我軍閥の愚劣なる侵略主義に由つて起つたと云はれて居るが、日支交通の實情に通ずる者より見れば、支那に於ける我商人の支那人に對する傍若無人の態度、即ち我商人の軍國主義的態度が往々にして一層大なる衝突原因を爲して居るのである。總ての對支關係を處理するに付て、吾々は常に自から支那人の地位に立つて問題を眺めると云ふ誠實の態度を守らねばならぬ。

三 支那投資と支那の利害

一國の對外策は獨り自國の利益より打算すべきでなく、同時に相手國の正當なる利益を侵害せざるは勿論、出來得る限り之を増進し、以て人類の共存共榮の根本要求を充たす性質のものたるを要する。特に天然資源の缺乏せる我國は、支那を初めとして資源豊富なる亞細亞大陸とは最も密接な共存關係を有するから、功利的見地より云ふも相手國を侵害する政策を行へば、其惡影響

が早晩自國の上に回轉し來らざるを得ない。而して過去に重要な地位を占めたる帝國主義的の支那投資、特に支那の一黨一派を援助して其政界を擾亂し、又は勢力範圍を建設するが如き排他的投資の不當なるは論するまでもないが、昨今行はれつゝあるが如き支那産業を振興する民間の自由投資をも、支那に有害なりと認めて反對する論者が支那にも我國にも存在する。此反對論の理由は區々であつて、以前には外人企業が支那に優勢となるときは支那の自由獨立を害する。支那は經濟上にも支那人の支那でなくてはならぬと云ふ帝國主義的色彩を帶びた排他的自主論が有力であり、又現在も支那の新興實業家即ち其の現代的資本主義者の間には、外人企業の競争を排するが爲めに此種の論を口にする者もあるやうであるが、併し最近更に彼等の新人と稱せらるゝ者の間に有力となつた外人企業反對論は、支那の社會問題の見地よりするものである。即ち支那に資本主義を發達せしむることは其社會狀態の惡化を來たすものと認め、其資本主義が外人の力に由りて發達すると支那人自身の力に由ることを問はず一樣に反對するのであるが、外國資本家の勢力に由りて建設せらるゝ資本主義は最も劣惡の性質を帶ぶるの虞ありと認め、特に之に對しては強く反對するのである。

資本主義の發達は更に高度の文明に進むが爲めに世界各國民が必然に通過することを要する進化的階段であると云ふ主張は有力なる學說となつて居るが、此說に由れば支那に資本主義の發達

することは喜ぶべき現象であり、之が爲めに種々の社會的弊害を生ずることはあつても、夫れは理想社會に到達する爲めに必要とせらるゝ犠牲である云へる。今ま此説の當否を茲に論述するの暇はないが、少くとも支那社會の現状より論すれば、其産業に内外の資本が多量に注入せられて經濟組織の變化を生ずることは、論者の憂ふるが如く現状の惡化とならずして其改善を來たす條件となるものである。

支那に資本主義の發達することを有害視する論者の多くは支那社會の實情に付て誤解して居る。他の諸國に於ては通例資本主義以前の時代には人口の多數が獨立の小企業に従事し、日々の勞銀に由りて其日の生計を立つるの外なき純粹の無產者は例外的現象であつた。故に此の如き社會に資本主義が發達すれば、人口の多數が獨立の地位を失ふて無產者とならざるを得ない。然るに支那は世界の現存社會の中に最も古き歴史を有するものであつて、夙に無數の無產者階段が發生し、其生活狀態は困窮の極に達して居る。支那の到る所に存在する無數の苦力の憫むべき生活狀態を視るときは、何人も之を世界の人道問題視することを禁じ得ないのである。此無產者が支那人口の何割に當るの大きさを有するやは、支那人口其物の不明なる今日に於て之を確めるを得ないが、其の大きさは資本主義以前の時代に於ける他の諸國の場合の如く例外的の小數に止まらざるは明かである。此事は曾て本誌に於て論じた如く、支那には此無產者の爲め夙に特有の社會問題が

起つて居り、現に今日の支那が支離滅裂の狀に陥つて居る窮極の原因も、此無産者の存在にあることを見ても明かである。

支那特有の社會問題の何たるやを茲に重ねて論述することを避けたいが、之を約言すれば、支那には古き時代より多數の窮民が發生し、其一部は匪徒となりて各地の安寧秩序を亂だし、又他の部分は軍隊に收容せられて秩序の維持よりも寧に其擾亂の原因となつて居る、支那の軍隊は他の諸國の如く秩序維持の目的を有たぬではないが、早くより窮民を軍隊に收容して之を給養することに由り、其匪徒となることを防ぐの目的をも兼ねて居た。即ち支那の軍隊設置は古き時代より社會政策的施設の一つとせられて居た。然るに支那の社會組織は本來不健全なものであり、特に多數の有力なる中層階級が存在せざる爲め強固且つ安定せる輿論に由て社會の統制を確立すること難く、従つて上述の目的を以て組織せられた軍隊は常に少數專制者の私兵となりて種々の弊害を生じ、特に清朝滅亡後は此私兵を擁する督軍が互に割據鬭争を事として、今日の如き秩序の紊亂を生じて居るのである。

他の文明國に於ては覺醒せる無産者が團結して社會運動を起し、其運動の過程に於て往々社會の秩序を混亂せしむることがあつても、併し大體に其運動が社會の進歩を來しつゝあることは争はれない。然るに支那の無自覺なる無産者は徒らに少數專制者の手段となつて自殺的な鬭争掠

奪の破壊事業を行つて居り、就中其軍隊の弊は區々たる小團體に分裂せる匪徒の跋扈よりも遙かに甚しいが、更に此の如き有害の軍隊を養ふが爲めに巨額の經費を要し、之が爲めに支那は財政上の破産に陥つて居るのである。支那の政治を改革するには、先づ此の如き有害の軍隊を解散して財政を改善すると同時に、督軍の暴力專制を絶滅するに在りとは世論の一致する所であるが、今日の如く野心家の手足となつて働く無智の窮民が多數に存在し、特に彼等の生活程度の甚だ低きが爲めに、野心家が割合に少額の資力を集めて強大の軍隊を支持し得る現状が續く限り、軍隊解散私兵絶滅即ち裁兵廢督を有効に行ふことが困難である。更に一面には支那の經濟の幼稚なるが爲め、特に科學的智識を必要とする現代的産業の尙は幼稚なるが爲め、其智識階級を生産事業に收容すること難く、其結果彼等は民衆の膏血を絞つて政治に衣食するの己むを得ざる境遇に陥り、其政争が深刻を極めて秩序の紊亂を益甚しからしめつゝある。所謂青年支那の覺醒運動も現代的産業の發達するまでは徒らに口頭紙上の業に止まる場合が多いであらう。

支那に於ける如上の社會的弊害の根源は頗ぶる深いものであるから、之が救済に付て萬能的方法を見出すことは困難であるが、現代的大企業を隆盛ならしむることは其救済の必要條件である。生産力の大なる現代的企業の發達に由り、困窮に陥れる支那の下層民の生活程度の高めらるゝことは、戦争以來の經驗に徴するも明かであるが、其結果は漸々下層民の精神的向上を來た

し、特に現代的の國民教育を之に普及することが可能となる。又尨大なる支那の交通機關を整備するが爲めには巨額の外資輸入を必要とすることが明かであるが、其交通機關にして相當に發達するときは、地方の經濟に著しき進歩を來たし、人口の大部分を占むる農民の向上進歩も初めて可能となる。支那の如き農業國に於ては、農民が覺醒向上しなくては社會の統制が少數專制となることを免れない。固より下層民の地位の向上するに従ふて其間に社會運動が起るであらうが、此場合には今日の軍隊匪徒の跋扈の如く自他を害する自殺的運動とならずして、眞の向上運動となるであらう。特に下層民が産業發達の爲め自由に職業を見出すことを得て其所得も増加すれば、財力の關係よりして今日の如く少數專制者が容易に私兵を養ふて割據鬭爭することが出來なくなる。又支那の産業が現代的に發達すれば、今日の如く有爲の青年が妄りに政界に寄生し、之が爲めに秩序の紊亂と民衆の膏血搾取との弊を生ずることも減少するであらう。支那の産業が發達すれば其財政も鞏固となりて一體の政治組織を改善することも可能となる。固より支那の産業が發達すれば機械的必然を以て其社會狀態を改善せられると斷言するを得ないが、併し産業の發達が其改善の必要條件たることは、何人も之を承認せざるを得まい。

現代的産業の發達に由り支那の社會狀態が悪化すべしと主張する論者は、一面に支那の現状を比較的に樂觀する者であるが、此樂觀たるや他の重要な點に付て支那社會を誤解したる爲めに

起るものである。元來支那は歐洲諸國全體に比肩する廣大の地域と多數の人口とを有し、殆んど無限の天恵に浴して居る一大世界であつて、之を他の個々の國民民族と比較して優劣を論ずるは誤りである。而して此一大世界を構成する個々の支那人の能力に付て見れば必ずしも低位に在りと云ふを得ない。故に支那社會が今少しく有効に組織せられ、其個人の力を調和集結することが出來たならば、物質的にも精神的にも今日に幾倍するの進歩を爲し、以て世界の文明に大なる貢獻を爲して居る筈である。然るに事實は之に反して今日の如く憫むべき狀態に陥つて居るのは、是れ古き時代より其社會組織の甚だ不健全となり、特に有力の中層階級の存在に由りて社會全體の調和集結することが出來なくなり、從つて其社會狀態の惡化廢頽が極度に達して居る爲めと見るを正當とする。一體に外國人は以前には不當に支那を蔑視したが、我國力が發展して東洋方面にも國際的の勢力均衡關係が成立し、自由に支那を侵略するを得ざるに至つて以來、前とは反對に支那人に迎合して之を過賞するの傾向を生じ、支那の識者の間にも之に耳を傾ける者が少ないやうであるが、是れ決して支那社會の改善の爲めに喜ぶべき現象と云ふを得ない。

最後に支那人と思想感情の融和し難き外國資本家が支那の產業界に大なる勢力を占むるに至れば、支那に於ける資本主義が特に劣惡殘忍のものとなるの虞なきやの問題が残つて居る。既に述べた如く支那に現代的產業の發達することは、其下層民の地位を向上せむる必要條件であるが支

那の企業家と支那人の貯蓄したる資本のみに由り其産業を發達せしむることは甚だ困難である。

故に諸外國の企業者と技術家と資本とが來りて支那の産業を發達せしむることは其社會狀態の改善の爲めに有利である。支那の富源を開發する爲めにも、又支那各地を政治的社會的に結束する爲めにも交通機關の發達を特に必要とするのであるが、廣大なる支那の交通機關の現代化は外國資本の力に内らざれば殆んど不能なることは何人も否み得ない所である。現に最近生産能力の大きなが爲めに高き勞銀を拂ひ得る外國企業が支那に多く勃興して盛んに勞働の需用に付て競争し、其勞銀が著しき騰貴の勢を示すに至つたが、之が爲め勞働者の虐使に由り辛ふじて存立し得るが如き能力の低き支那の實業家は、最早や以前の如く低廉に勞働を使用するを得ざることとなり、其結果彼等の間には外國企業の進入に反對の氣勢を高めつゝある。之に由て見るも外國企業が支那の産業界に發展することは、支那資本家の個人的利益と衝突する場合が多いとしても、其社會狀態の改善を促進するの力がある。尙ほ本誌前號にも論じた如く、廣大の天然資源を有する支那は、之を開發して人類の共同生活に貢獻するの責任を有するものであつて、支那が此責任を果たすが爲めには適當の條件を以て外國企業に對して門戸を開放することを要するが、此の門戸開放が上述の如く支那社會の改善の爲めにも必要である以上は、支那の從來の排外的態度の誤れることが明かである。

支那に於ける外人企業の社會的影響は此の如く有利であるとは云へ、支那に事業を營む外國企業者は單に産業發達の爲め自然に支那労働者の向上することを以て足れりとせず、更に進んで其向上の爲めに努力するの責任がある。政府の無力なる支那に於ては他の國に於けるよりも一層多く實業家が此責任を負担せねばならぬ。而して此責任は支那に於て最も多く事業を營む所の我國民が最も多く負擔する所であるが、更に注意すべきは我國の産業が支那の産業發展に由り最も強く其競争に暴露せられて居る。故に若し今後支那に於ける企業が何等の社會政策的の負擔と制限とを蒙らず、自由に其の低廉なる労働を使用して國際的に競争し得るときは、我國も到底時勢の要求する社會政策を實行し得ざることとなる。此社會的自衛の關係より見るも、我國は特に支那の社會政策の發展の爲めに努力するの必要に迫られて居るのであるが、支那の關稅の急激なる引上げに由りて其工業の發展が更に大に促進せらるゝに至つた今日は、最早や此問題の解決を遷延するを得ない。支那關稅附加稅二分五厘引上げを實行する爲め近く開催せらるべき國際會議に於て、或國は適當なる労働者保護制度を支那に實行せしむることを以て、關稅引上の承認條件の一つとせねばならぬ。

支那は國際協約の問題として取扱ふことの最も多き國であるが、從來の協約は概ね支那の經濟的利益を各國の間に如何に分配すべきやを題目としたのに反し、今後は支那の社會狀態を改善

することをも國際協約の重要項目とせねばならぬ。進歩したる外國の企業家技術家と豊富なる外國資本とが盛んに支那に入つて産業の經營に従事し、其紡績業の如きは久しからずして我國の鉅數に追ひ及ばんとしつゝある今日に至つて、支那は最早や其工業の幼稚なることを理由として労働者保護の國際的責任より全免せらるるを得ない。最も支那の如く國家機關の甚だ不完全なる國に於ては、如何なる社會的立法を爲すも其實行の見込なしと認めて、此國際協約に反對する意見も起るであらうが、併し支那に於て有利に工業を營み得る場所は、外人の勢力の及び易き居留地及其附近であつて、支那の企業者も交通不便なる奥地に於て大規模の工業を經營することは困難である。故に各國共同して支那政府を助くるときは、相當の労働者保護制度を實行することは困難でない。支那の輿論は近來國際的援助又は監督に對して非常の反抗を示して居るが、労働者保護の爲めの國際共同援助は、外國の利益の保護を目的とする從來の國際的監督とは全然性質を異にし、支那の社會改善を第一の眼目とするものであるから、徒らに國權侵害として之に反對するの理由は立たぬ。此點は豫ねて支那社會の改善に努力しつゝある眞摯の青年支那の共鳴せねばならぬ所である。